

一般演題口演 | 一般演題：精神科救急

2024年7月18日(木) 16:00 ~ 16:55 第12会場 (宝山ホール 3階 第6会議室)

[05] 精神科救急

座長:早川 達也(聖隷三方原病院 高度救命救急センター)、柳澤 八恵子(聖路加国際病院 救命救急センター)

16:21 ~ 16:28

[05-04] 精神科救急に対する救急搬送体制のあり方について*坂元 将貴¹、内田 宗暁¹ (1. 福岡市消防局)**【目的】**

精神症状を主とする傷病者への対応は、夜間・休日において、精神科救急医療システムを使用しているが、現場滞在時間が延長し、平均で1時間33分、最長4時間となっている現状がある。そこで精神科救急の搬送体制について研究を行い、効率的な病院選定や現場滞在時間の短縮を図っていく。【対象と方法】

当局の全救急隊員へ精神科救急事案についてのアンケートを実施し、精神科救急対応時に苦慮する理由を調査したところ、主な理由として、下記の結果を得た。

- 1、救急病院と精神科専門医療機関との板挟み
- 2、金銭的理由
- 3、キーパーソンの不在及び傷病者や家族の理解不足
- 4、傷病者からの聴取困難

この結果と、県精神科救急医療システムの実施要綱を照合し、精神科救急における対応フローチャートを作成し、現場活動での使用前と使用後の活動時間について検証を実施。【結果】

フローチャートの試行による結果について報告する。【結語】

令和5年3月に、県精神科救急医療システム実施要綱に、精神科ソフト救急に係る常時対応型病院が追加された。今後、このような新たな取り組みを、フローチャートに加え、運用していくことで、さらに活動時間の短縮を図っていく。